

## 低侵襲手術支援ロボット ダヴィンチ(da Vinci)最新機種Xiの導入

京都第二赤十字病院泌尿器科部長の邵 仁哲（そう じんてつ）と申します。



泌尿器科 部長

**邵 仁哲**（そう じんてつ）

学会専門医・認定医

日本泌尿器科学会 泌尿器科専門医・指導医

日本泌尿器科学会・日本泌尿器内視鏡学会

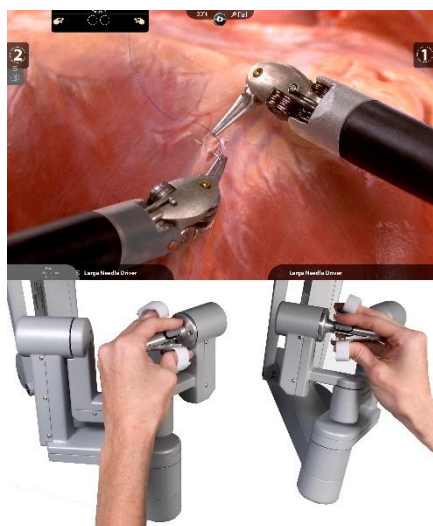
泌尿器腹腔鏡技術認定制度認定証

日本内視鏡外科学会 泌尿器腹腔鏡技術認定証

日本性機能学会 専門医

当院では、昨年末より低侵襲手術支援ロボット ダヴィンチ(da Vinci)の最新機種である Xi を導入いたしました。

ダヴィンチは、低侵襲技術を用いて複雑な手術を可能とするために開発されました。高画質で立体的な3D ハイビジョンシステムの手術画像のもと、人間の手の動きを正確に再現する装置です。術者は鮮明な画像を見ながら、人の手首よりはるかに大きく曲がって回転する手首を備えた器具を使用し、精緻な手術を行うことができます。



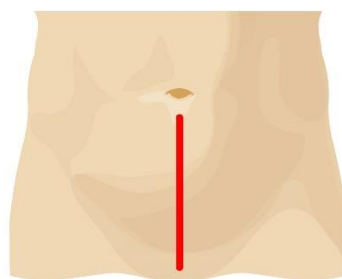
患者様にはよく「ロボットが手術をしてくれるのですね。」と質問されますが、ロボット支援手術は完全に医師の操作によって実施されます。

泌尿器科の癌領域では、現在罹患率男性1位の前立腺癌に対して、このダヴィンチを用いたロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術（RARP または RALP）を行っています。RARP または RALP は、以前の開腹手術と比べて短い入院期間で、出血量も少なく抑えることができます。また術後の尿失禁などの合併症もかなり軽減させることができ、非常に低侵襲なすぐれた手術法と言えます。

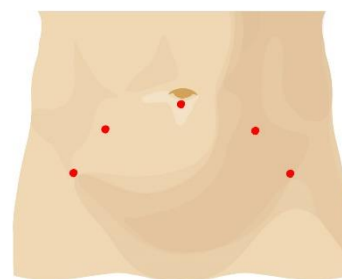
当院ではさらに、手術中に、京都府立医科大学で実践されている、経直腸超音波にてリアルタイムに前立腺や重要な隣接臓器を描出することにより、腹腔鏡だけでは認知できない死角を確認することを可能にする世界をリードする先進的技術を用いています。この先進的画像誘導技術により、術者が腹腔鏡だけでは見えないがん病巣の存在部位を確認することが可能になり、腫瘍の完全切除率の向上と合併症の低減が期待できます。この、リアルタイム超音波ガイダンス法は、術後尿失禁の早期改善や勃起機能温存の向上による、術前から術後への生活の質(QOL)の維持への貢献が期待できます。

また腎癌に対しては、ロボット支援  
腹腔鏡下腎部分切除術(RAPN)を、進行  
した膀胱癌に対してはロボット支援  
下腹腔鏡下膀胱全摘術(RARC)を導入  
し、患者様に対してできる限り安全で  
低侵襲な QOL の良い治療を行うこと  
を目標にしております。

このダヴィンチを駆使して、地域の  
患者さんや先生方のご期待に応えることができますように努力してまいり所存ですので、今後ともご指  
導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



Open Surgical Incision



da Vinci® Prostatectomy Incision